

(2022年6月19日)

第39回 赤松小三郎研究会のご報告

日時： 2022. 6. 11 (土) 13:30～16:30

場所： 文京シビックセンター 4階 B会議室

出席者：13名 (内、初参加2名)

< 配布資料 >

資料-1 赤松小三郎 建白書の「謎」

～「慶応丁卯雑記」に写された、幕府宛て建白書の謎～

資料-2 赤松小三郎 建白書 (建白七策) の比較表

資料-3 赤松小三郎研究会の今後の進め方について (自由討議資料)

< 内容 >

I 【赤松小三郎 建白書の「謎」

～「慶応丁卯雑記」に写された、幕府宛て建白書の謎～

発表者：石川浩氏

1. はじめに

- ・赤松小三郎は、慶応3年5月に、福井藩主松平春嶽及び薩摩藩国父島津久光宛に、政治構想としての建白書 (いわゆる「建白七策」) を提出している。
そして幕府宛てにも同じ内容の建白書を提出したと言われているが、その所在は不明。
現在、「もりおか歴史民俗博物館」所蔵の「慶応丁卯雑記」十四に盛岡藩士が写したものが残っている。

2. 二つの建白書 (春嶽宛と久光宛) の違い

- ・大きな違いは次の1か所

「陸海軍御兵備之儀ハ・・・」の条文において

松平春嶽宛～「乱世ニハ国中之男女尽ク兵ニ・・・」

島津久光宛～「乱世ニハ国中之男子尽ク兵ニ・・・」

- ・違いの理由 (推測・説)

- ① 薩摩藩における「男尊女卑」の精神に、小三郎が気配りした？
- ② 春嶽宛の建白書は焼失しており、現状では「続再夢紀事」の二十一の中に文面を写したものが残されているが、写し間違いではないか？

(久光宛の建白書は、原本が鹿児島県黎明館に保存されている。上田市の赤松小三郎顕彰会が作成したレプリカが上田城址公園内の赤松小三郎記念館に展示されてい

る)

3. 「慶応丁卯雑記」に写された幕府宛の建白書について

- ・ 原本は無く、現在、「もりおか歴史民俗博物館」所蔵の「慶応丁卯雑記」十四に盛岡藩士が写したものが残っている。
- ・ 写した時期は、慶応3年11月（春嶽・久光宛提出は慶応3年5月）
- ・ 建白書の立案者が赤松小太郎となっている。しかも、「松平伊賀守内」の記載が無く、どこの藩士か判らない。

4. 春嶽宛・久光宛の建白書と幕府宛の建白書との比較

- ・ 先出二つの建白書と文面構成の違いが5か所ある。他にも、各条項の文面の文言で誤記が多く、兵の数や議員数なども大きく違い、文面が抜けたりして、写し間違えたにしてはひどすぎる。

（詳細は「赤松小三郎 建白書（建白七策）の比較表」（別紙—1・2）を参照）

- ・ 先の、「陸海軍御兵備之儀ハ・・・」の条文においては、「男子たる者に繰練ニ偏るる事なきの法を立、且志有之者・・・」と書き換えられ、条文の中間に挿入されている。

5. 「謎」のまとめ（私見として）

- ・ 幕府宛の写しは、なぜ春嶽宛及び久光宛と比べて違うのか？
- ・ 小三郎があえてその内容を変更したのか、もし変更したとすればなぜか？
- ・ 盛岡藩士が写し間違えた可能性もあるが、幕府宛原本と照合ができないので確認できない。
- ・ 幕府宛の原本は、どこにあるのか？
- ・ 小三郎が建白書（「建白七策」）を書くに当たって参考にした資料は何か～西洋事情・英国史・大英国史？

II 【赤松小三郎研究会の今後の進め方について】

滝澤進会長の司会で、今後の研究会活動の充実・発展のため、当日配布の資料—3を参考に参加の皆様と自由討議をしました。

以下、皆様の発言の一部を紹介します。

- ・ 研究会の活動状況・研究成果の公表を、今後も引き続き上田高校関東同窓会のホームページ（既存の赤松小三郎研究会のページ）で積極的に行っていく
また、研究成果等を冊子にまとめてホームページなどで公表する
（例）「赤松小三郎資料集」
「赤松小三郎事績集」
「赤松小三郎講演会講演集」
- ・ 会員（特に若手会員）の増強策について、赤松小三郎のゆかりの地（上田、京都）を巡るツアーの企画（赤松小三郎顕彰会との連携強化も）

- ・扱うテーマは、これまでと同様に赤松に限定せず、赤松関連で幅広く取り上げたら良いと思う

●事務局からのお知らせ

- 「第9回赤松小三郎講演会」の詳細が決まりました。

日時：2022年12月10日（土）、14：00～16：30

場所：日比谷図書文化館（地下1階）コンベンションホール（昨年と同じ）

講師：三谷博氏（東京大学名誉教授）

演題：赤松小三郎の立ち位置

※チラシ（原稿）が出来上がりましたので、お知り合いにご案内をよろしくお願ひします。

- 次回の研究会は、8月はお休みして、10月になります。

日時など決まり次第、メールと関東同窓会ホームページでお知らせします。

（記録：荻原貴）